

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成30年(2018年)4月11日

上田地域振興局

提出区分	実績						
整理番号	13	課題区分	A				
実施機関	上田地域振興局(林務課)			担当課	所属	林務課(林務係)	
事業名	鳥獣被害監視システムの構築～携帯電話回線を利用したわな従事者の負担軽減対策～			電話	0268-25-7137		
				E-mail	uedachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要	目的 (目指す姿)	有害鳥獣駆除の見回り労力の大幅な削減と迅速な対応で、有害鳥獣捕獲の増大を図り、農林作物の被害減少を図る。					
	現状と課題	年間を通しての捕獲圧によりニホンジカが捕りにくくなっている。それは、狩猟者の捕獲意欲の低下をまねいている。また、上田管内で有害鳥獣駆除等の従事者は60歳以上が7割を占めている。一昨年、県内で高齢従事者が従事中に現地で2人が病死する事態が発生した。現在、上小猟友会員も350名あまりと減少しているなか、若手の確保が困難であり、ベテランの高齢者に頼らなければならないのが現状である。捕獲作業の効率化と捕獲管理を見直すことが急務となっている。					
	内容 (変更後の内容)	不確実だった野生鳥獣の生態を、センサーカメラと誘引資材を活用し、被害をもたらしている野生鳥獣の実態を調査記録するとともに、センサーカメラデータについて携帯電話回線によるメール送信機能を活用し、遠隔地のわなの状態を確認できる野生動物の捕獲管理システムを構築する。誘引資材による捕獲の効率化と携帯電話回線を利用した監視システムを活用して、わなの見回りなど労働負担の軽減を図る手法を確立し地域に普及する。事業実施個所としては、高標高地でニホンジカ生息数が最も多い上田市武石地区(千曲川左岸)、千曲川右岸として東御市、ニホンジカの季節移動を考慮し低標高地の里山の青木村で実施する。					
	事業期間	平成29年9月		～	平成30年3月		
等	成果目標	監視システムや誘引手法について、地形等の設置条件を変え比較検討し、上田管内での効果的な導入手法を確立する。システムの導入により、狩猟従事者のわな見回りの労働軽減による従事者対策が期待できる。					
事業費	事業費	346,686 円				(単位:円)	
	節区分	主な内容	当初計画額 a	変更(最終)計画額 b	実績額 c	差引 b-c	備考
	需用費	資材等購入費 (センサーカメラ、カメラセキュリティボックス、バッテリーボックス、標準SIMカード(SMS機能)、誘引資材)	321,000	321,000	320,766	234	
		役務費	通信費(年額) データ量7GB	69,000	69,000	25,920	43,080
						0	
						0	
計		390,000	390,000	346,686	43,314		
事業実績・成果	事業実績	実績		事業の成果		評価	
	平成29年11月17日から平成30年3月22日までの125日間にわたり3台の監視カメラで12名の猟友会及び市町村関係者へ毎朝、監視カメラから現地の状況を配信し見回りの軽減について検証してきた。ニホンジカやイノシシ、キツネなどの捕獲状況を得ることができた。			画像による配信を受けることで、何がワナに掛っているかが、早朝から自宅で確認ができ、見回りの軽減につながったと思われる。監視カメラを取り扱う上で、システムの実行に必要な様々な情報を得ることができた。		○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下	
今後の方向性	今回のシステムでは配信を受ける側の電話やパソコンの仕様により画像が受信ができないことがあることが判明した。誰でも使えるカメラ仕様で見回り軽減対策を本格化することが必須である。しかし、画像による配信を受けることで群れの出没状況の把握や種類が判明するので、市町村には被害対策のデータの提供と猟友会には効率的な捕獲への情報提供になることがわかった。また、監視カメラシステムを様々な人に使って頂き、野生動物の生態を生で知ること狩猟への興味を引き起こし狩猟者の確保へも広げられる可能性がある。						